

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19730335

研究課題名（和文）

「永続的ソジョナー」中国人によるトランスナショナルな社会的統合の研究

研究課題名（英文）

A Study of Transnational Social Integration by Chinese as 'Permanent Sojourners' in Japan

研究代表者 坪谷 美欧子 (MIOKO TSUBOYA)

横浜市立大学国際総合科学部 准教授

研究者番号：80363795

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：(1) 国際移民システム (2) 在日中国人 (3) アイデンティティ (4) 永続的ソジョナー (5) リプレゼンタティブ・エスニシティ (representative ethnicity) (6) 社会的統合

1. 研究計画の概要

本研究は、留学を契機として来日する中国人のアイデンティティや日本社会への統合についての考察を通して、日本社会および国際関係の変容を展望するものである。

日本に滞在する中国人は増加の一途をたどり、韓国・朝鮮人につぐ大規模な外国人人口をなしている。また中国人の移民プロセスの特徴は、留学・留学から日本企業や研究機関等への就職という長期滞在パターンが成立している点で、他のニューカマー外国人にはみられない、日本の高等教育、社会、経済と深いつながりを持つ集団を形成している。近年では日本国籍や永住資格を持つ中国人も急増する一方で、常に帰国が意識され強いナショナル・アイデンティティを保持している。

本研究では、①「国際移民システム」仮説の精緻化、②「永続的ソジョナー中国人」の日本的特質および社会的統合に焦点を絞り、中国人によるトランスナショナルな移民システムの展開とそのインパクトを明確する予定である。

2. 研究の進捗状況

平成19年度には、①「国際移民システム」仮説の精緻化、②「永続的ソジョナー中国人」の日本的特質および社会的統合に焦点を絞り、中国人によるトランスナショナルな移民システムの展開とそのインパクトを明確にした。こうした成果により単著『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ』（有信堂）として発表した。

平成20年度は、とくに日本におけるニューカマー中国人の子どもの教育、とりわけ高校進学を果たした生徒たちが抱える問題と高校でのサポートについて考察した。かれらが入学後に抱えるさまざまな問題のなかでは、第一に新来の生徒たちは自分が日本の高校で学ぶ意味が客観視できていないことが大きかった。第二に母国の中国と日本の学校文化の違いから、日本での進学を望みながらもうまく高校での学習を進める動機づけを持たずにいる生徒が少なくないことも明らかにした。

平成21年度は1年間、学内の「海外及び長期国内出張」制度を利用し、中国において東北三省からの移住者の増加についての調査・研究活動を行った。研究テーマとしては2つの大きなテーマにもとづき、調査活動を実施した。第1に、中国人留学生によるトランスナショナルな移民システムの展開と地元社会インパクト、第2に中国残留孤児帰国者家族や中国人の子どもたちの日本の学校教育不適應問題についての中国の教育状況との比較研究である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究で明らかにする重要な点は、滞日中国人の国際移民システムの精緻化であるが、新たな層の中国人留学生の広がりにも着目すべきと考えている。とくに、「80後」「90後」などと呼ばれる、80年代以降に生まれた、いわゆる「一人っ子政策」実施以降に生まれ

た世代にとっての日本留学の意味づけの解明も平成 21 年度までに着手できた。

また近年増加する中国東北部からの日本入国者も看過できない規模になりつつある。この点については、とりわけ社会学および北東アジアにおける国際関係の分野で優れた研究者を擁する黒龍江省社会科学院社会学研究所の王愛麗所長や北東アジア研究所のダ志剛所長、残留孤児養父母連議会の石金楷秘書長らの協力体制が築けたことは、本研究の成果にとって大変有益であった。

4. 今後の研究の推進方策

平成 22 年度が本研究の最終年度にあたるため、これまでに得られたデータ分析をもとに仮説を検証し、理論の精緻化を完成させる予定である。その結果は、国内外の学会や学術雑誌（日本語、英語、中国語）等で発表したい。また、科学研究費の研究成果公開促進費等の出版助成にも申請し、本研究の成果を学術図書として出版しその内容を広く公開する。

本年度の具体的な研究テーマとしては、以下の 2 点である。

(1) 80 年代から始まった「留学潮（留学ブーム）」の意味を再検証しつつ、中華人民共和国からの日本への留学をめぐる 2 つの大きなジェネレーションについて考察を加える。新しい世代の間で起こりつつある様々な現象についてどのように捉えるべきか、その変容の側面に着目しながら、「永続的ソジョナー」としての中国人留学生のゆくえを探りたい。

(2) 近年急速に増加する中国の東北三省（遼寧省、吉林省、黒龍江省）から日本への人口移動の問題を広く概観すると、留学のみならず、中国残留孤児家族の帰国者、日本人と結婚のために渡日する女性やその子どもたち、日本企業への就職などの入国ルートも看過できない規模になっている。今後はこうした中国東北部からの移住現象も広く視野に入れながら、「永続的ソジョナー」の中国人の現在について考察する予定である。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 2 件）

坪谷美欧子、「永続的ソジョナー」としての中国人留学生——1980 年代の「留学ブーム」から新世代の出現へ——『中国 21』第 33 号「特集：留学(仮題)」、2010 年、愛知大学現代中国学会（ページ未定）査読無

坪谷美欧子、外国につながる高校生の抱える課題とそのサポート——神奈川県立高校における多文化教育コーディネーター事業の事例から——『横浜市立大学論叢社会科学系列』第 60 巻第 2 号 2009 年、pp. 277-299. 査

読無

〔学会発表〕（計 1 件）

坪谷美欧子、「透視中国東北部地区向日本的移居現象及意義——兼談東北亜地区社会学視角的重用性——」第二回北東アジア区域協力発展フォーラム、2009 年 6 月 15 日、於：中国黒龍江省社会科学院

〔図書〕（計 4 件）

坪谷美欧子、「滞日中国人による「永続的ソジョナー」アイデンティティの形成——トランスナショナルな移動者としての中国人留学生——」永野武編『チャイニーズネスとトランスナショナルアイデンティティ』明石書店、2010 年、pp. 149-172.

坪谷美欧子、『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ——中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂、2008 年、p. 259.

坪谷美欧子、「滞日中国人家族とジェンダー意識の変容——トランスナショナルな就労・育児・介護の経験から——」小玉亮子編『現在と性をめぐる 9 つの試論——言語・社会・文学からのアプローチ』春風社、2007 年、pp. 64-94.

坪谷美欧子、「〈永続的ソジョナー〉という生き方——滞日中国人の帰国の〈成功〉と〈中国人性〉へのまなざし——」佐久間 孝正、林 倬史、郭 洋春 編著『移動するアジア——経済・開発・文化・ジェンダー』明石書店、2007 年、pp. 138-169.